

研究・調査報告書

報告書番号	担当
1 4 1	滋賀医科大学社会医学講座福祉保健医学部門
題名 (原題/訳)	
Primary care validation of a single screening question for drinkers. 飲酒者に対するスクリーニング用の単一質問の、プライマリケア現場での有用性について	
執筆者	
Seale JP, Boltri JM, Shellenberger S, Velasquez MM, Cornelius M, Guyinn M, Okosun I, Sumner H.	
掲載誌 (番号又は発行年月日)	
Journal of studies on alcohol 2006 Sep;67(5):778-84	
キーワード	
アルコール乱用、スクリーニング用単一質問、プライマリケア	
要 旨	
<p>目的：</p> <p>本研究では、アルコール乱用のスクリーニングのために、救命救急の現場で既に有用性が示されている「あなたが最後に 1 日 X 単位以上飲酒したのはいつですか？ (X は女性で 4 単位、男性で 5 単位)」という単一の質問をプライマリケアの現場で行う有用性について検討した。</p> <p>方法：</p> <p>この研究はジョージア州マコンの南西部に位置する 5 つのプライマリケアを担当する診療所を受診した成人男女 625 人を対象とした断面調査である。対象者には上記の単一質問 (回答により「3 ヶ月以内」、「12 ヶ月以内」、「それ以前」、「一度もない」に分類) と AUDIT (アルコール関連疾患用テスト)、AUDIT-C (AUDIT のアルコール消費量に関する質問) に回答してもらった。アルコール乱用者は、29 日間経時的遡りインタビュー (29-day Timeline Followback interview) による危険飲酒状態か、DSM-IV の基準でアルコール関連疾患の状態 (または既往) に該当するか、両方当てはまる者と定義した。</p> <p>結果：</p> <p>625 人のインタビューを受けた飲酒者のうち、25.6% が危険飲酒者、21.7% がアルコール関連疾患の状態、35.2% がその一方または両方に当てはまる状態であった。単一質問に「3 ヶ月以内」と答えた場合を陽性と考えると、その感度 (アルコール性疾患のある者があると正しく判断する能力) は 80%、特異度 (アルコール性疾患のない者をないと正しく判断する能力) は 74% であった。χ^2 検定では人種、性で分類しても同等の感度を示した。しかし、特異度は女性や白人で高かった ($P=0.0187$ と 0.0421)。「12 ヶ月以内」を陽性と考えると、特にアルコール関連疾患においてこの質問の感度が増加する。またこの質問は、検査の精度としては AUDIT や AUDIT-C と比べてやや劣るが、感度と特異度はほぼ同等である。</p> <p>まとめ：</p> <p>大量飲酒の最終エピソードに関する単一の質問はプライマリケアを受け持つ診療所でのアルコール乱用スクリーニングに有用であると思われる。</p>	